



第23回日本レーザー医学会総会

会長：大阪市立大学・眼科 三木徳彦 教授

第23回日本レーザー医学会総会は『医用レーザー21世紀の夢』をテーマとして、特別講演、招待講演、教育講演などを企画しました。眼科分野は日常診療でレーザーを多用しているにもかかわらず、日本レーザー医学会への参加者が少ないとのご指摘で、眼科レーザー・シンポジウムを開催いたしました。会場は、大阪国際会議場(グランキューブ大阪)10階で、期日は11月29、30日、一般演題以外の講演内容は、渥美和彦東大名誉教授の特別講演、独レーゲンスブルグ大学ガーベル主任教授の人工網膜に関する招待講演、さらに教育講演は、ナノテクノロジーの医療への応用(横山慶応大教授)、自由電子レーザーの医療への応用(栗津阪大教授)、卓上シンクロトロン“みらくる”の医学応用(山田立命大教授)、フォトクロリン誘導体の特性と分子標的(中島帯広畜産大教授)、歯科治療におけるレーザー計測の応用(高石博士)。光感受性物質による病態画像観測(會沢東京医大教授)、そしてランチオンセミナーは、井上市大教授、平光浜松医大教授、大城博士に講演を頂きました。また、眼科では、屈折矯正手術、光干渉断層計、選択的組織破壊をテーマに西田山口大教授、米谷埼玉大教授、岸群馬大教授、岡野東京医大教授、不二門阪大教授などが参加されました。さらに、専門制度セミナー、市民公開講座(渥美東大名誉教授と森井大阪市大名誉教授)を開催いたしました。懇親会は、隣接するリーガロイヤルホテルで、近く日本で開く国際レーザー医学会、国際光線力学学会を盛り上げる願いも込めて開催しました。レディースプログラムは萬葉の古都明日香の日帰り旅行、市内観光を楽しんでいただきました。前年に定年退職でしたから、尾花明助教授(当時)はじめ大阪市立大学大学院医学研究科視覚病態学の御協力で開催できたことにあらためて感謝いたします。



尾花先生

(三木教授の原文そのまま)

